

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策1
県民の総力を結集できる行政の推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

広報室長 平野英夫

電話番号

22-5769

事務事業の名称	島根県の認知度向上対策事業	
目的	(1) 対象	県外在住者
	(2) 意図	県外の人々に島根県の全国に誇れる歴史、文化、自然、特産品等をPRすることにより、県の認知度を高め、ひいては観光、物産などの産業振興やUターンなどの定住化を促進する
事業概要	県の認知度向上のため、島根PR情報誌「シマネスク」の作成、県外在住で島根にゆかりのある人にPRを行ってもらう「遣島使」、県出身者への情報提供を行うための「県人会」への情報提供、しまねSuper大使吉田くんの活用、県外への若者や女性を含めた「島根県応援団」のネットワーク構築事業「リメンバーしまね」の運営を行う。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 島根県応援サイト「リメンバーしまね」の会員登録者数(人)	目標値		22,000.0	22,500.0	23,000.0	23,500.0	人
	式・定義 島根県応援サイト「リメンバーしまね」の会員登録者数(人)	実績値	21,555.0	22,102.0	22,504.0			
		達成率	-	100.5	100.1	-	-	%
2	指標名 島根県の観光客入り込み延べ数(千人)	目標値		33,530.0	33,690.0	33,850.0	34,000.0	千人
	式・定義 島根県観光動態調査における観光客入り込み延べ数(千人)	実績値	33,158.0	33,082.0	32,303.0			
		達成率	-	98.7	95.9	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	27,715	29,452
うち一般財源(千円)	26,851	28,588

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

島根県応援サイト「リメンバーしまね」の会員数は、昨年度から402人増加し22,504人であり、引き続きの右肩上がりの会員数を維持している。
また、島根県観光動態調査における観光客入り込み延べ数は、「松江城」国宝指定効果の平静化やアクアスの大規模改修等のため、昨年度から816千人減少し32,303千人であり、目標を達することができなかった。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

「リメンバーしまね」については、会員等が見やすく、使いやすくなるようにページデザインの刷新、ソーシャルネットワークサービス(Facebook、Instagram)の活用などのサイトリニューアルを行った。
シマネスクは、美しい写真を中心として島根の魅力伝えており、H29年度にはほんばし島根館や観光物産館への配布部数を増やしたほか、新たに県内空港のロビーなどにも置くなどした。配布先からは残部がなくなったとの報告もあり、好評を得ている。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

「リメンバーしまね」では、投稿している会員が固定化されている傾向がある。
シマネスクをより多くの県外在住者に届けたい。

②困っている状況が発生している「原因」

「リメンバーしまね」では、固定した会員間の投稿・コメントにより、やや入りづらい雰囲気があり、新規会員等にとって投稿へのハードルが高く感じられている。サイト開設9年目となり、活動がややマンネリ化していることも新規会員等が参加しにくい原因となっている。
シマネスクについては、部数が限られていることや、関連施設に足を運ばなければ目にとまらないといったことがネックとなっている。

③原因を解消するための「課題」

「リメンバーしまね」では、新規会員等が投稿しやすい環境づくり。
シマネスクを紙媒体以外で展開する方策の検討。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

「リメンバーしまね」は、県の認知度向上及びファンを増やすために、より多くの会員が参加しやすく、より島根県を知ってもらえるような企画、コンテンツを充実させる。これまで積極的に投稿している会員が引き続き楽しめ、新規会員等が気軽に参加できるように、団員の属性を意識した企画、コンテンツの充実を図る。
シマネスクは、引き続きデジタル化(電子書籍化)の検討を行う。